

利根中央病院

病院

だより

第27号
2011年春号

企画発行 利根中央病院地域連携室
〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1855-1
電話 0278-22-4325(直通) FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>
E-Mail master@tonehoken.or.jp

理念と方針

理念 安心と安全、参加と協同
患者中心のチーム医療

方針 ☆救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
☆診療情報提供と共に作る診療計画
☆広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり

● ● ● 院長就任挨拶

「頼りにされるよりどころ」として 原点に立ち返った運営に努力

利根中央病院
院長 糸賀 俊一



このたび平成23年4月より利根中央病院の院長に就任することになりました。

昭和56年4月に群馬大学より利根中央病院産婦人科医長として赴任して以来30年になります。紆余曲折はありましたが、この30年病院として徐々に発展してきた過程の中、いろいろな点で群馬県内でも一定の評価をされてきた病院であります。利根沼田の地域医療を守っていく事が、私たち利根中央病院職員全員に課せられた大きな責務と思います。

本年度重点的に取り組む課題はまず医師問題、そして経営問題です。幸いにも本年度は皆様の支援により医師数名の援助が確定し、麻酔科医師1名の常勤となりました。

昨年度とほぼ同等の診療体制・総合病院機能を維持することが可能になり、来年度に向けて、今後も群馬大学の協力を得ながら、当法人の人材確保委員会を通して生協理事さんと一緒に医師確保、医師養成に取り組んでおります。

まず、患者様のことを考える病院として、社会的弱者の立場に立つ「頼りにされるよりどころ」として、原点に立ち返った運営をしたいと考えています。多方面にて地域の診療所・病院との更なる連携が、地域医療を守るためには必要と考えておりますので、今後ともご協力よろしく申し上げます。



東北地方太平洋沖地震による 医療支援の紹介

東日本大震災により被害を受けられました皆様へ心よりお見舞い申し上げます。利根中央病院は皆さんと心をつなぐ復興に向け支援いたします。

3月11日大震災当日、厚生労働省の要請を受けて当院からDMAT（災害派遣医療チーム）を派遣しました。DMATは計4回を派遣、当院が加盟する全日本民主医療機関連合会の医療機関とともに医療チームを5回派遣し、現在も被災地での医療支援活動を行っています。

また、院内では被災地から避難されてきた患者様の受け入れを行っています。県内でも早期に被災者受け入れを決定した片品村からの患者様が多く、診療体制を厚くして受け入れています。初診時は、服用していた薬がない方がほとんどでしたが、避難期間が長期になり、持病が悪化した方や、不眠の訴え、風邪をひいた方、メガネを作りたい方、入院された患者様のお見舞いなど様々な目的で来院されています。利根沼田管内の受け入れ人数は当初約1,500名でしたが、2ヶ月経過した現在では630名となり、高齢者の方が多数いらっしゃると思われれます。今後も避難されている皆様が安心して避難生活を送れますように、市町村や避難施設との連携を取りながら患者様の受け入れを心がけていきたいと思えます。

「親切にしてもらった」と思ってもらえるように

<片品診療所>

片品村は3月18日より約950人の福島県民の被災者を受け入れました。当初は片品診療所に毎日20人近くの被災者の患者さんが来院していました。

震災後2ヶ月が経過した今でも、片品村では約400人余りの被災者が生活しており、「いつも飲んでいる薬が終わったので処方して欲しい」「風邪をひいた」「歯の治療がしたい」など、診療所に毎日5人前後の被災者の患者さんが来院しています。



4月19日に群馬大学医学部の学生さんが片品診療所を見学に来て、被災者の泊っている旅館を回る実習を半日行いました。「被災者の方々の苦難を身近に感じて、貴重な経験になった。今後の勉学に生かしたい」と感想を残し、大学へ戻って行きました。

被災者の方が片品村で生活するのは数ヶ月かもしれませんが、その間だけでも「親切にしてもらった」と被災者の方々に思ってもらえるように、スタッフ一同努力して行きたいと思えます。

東日本大震災における災害救援活動

利根中央病院 災害対策委員会 関原正夫

東日本大震災にあたり、利根中央病院として4回の災害支援活動を行ないました。

①3月11日～14日：仙台市にて急性期災害医療活動

11日20時にDMATチームが病院を出発し、宮城県の仙台医療センターに、12日午前5時に到着しました。自衛隊仙台駐屯地における応急救護所立ち上げ業務や航空搬送患者対応・診療支援のほか、現場救護所活動に従事しました。仙台市若林区の現場救護所の周囲は、津波によって瓦礫と土砂の海と化しており、言葉を失う惨状でした。

②3月17日～3月19日：塩釜市にて診療支援

DMATチームが塩釜市の坂総合病院へ向かい、院内の診療支援のほか、避難所巡回医療支援を行ないました。

③3月21日：前橋市にて広域搬送受け入れ活動

福島県南相馬市からの入院患者を受け入れるため、群馬DMATが召集されました。陸路搬送した患者を前橋市の産業技術センターに一時収容し、重症度・緊急治療の必要性を判定した後、県内医療機関に分散して収容するというものです。救急車や自衛隊によって搬送された62名の患者を群馬県内の各医療機関で受け入れました。

④3月28日～31日：宮城県、南三陸町にて群馬県医療救護班活動

群馬県医療班として南三陸町の志津川中学校で常駐医療活動を行ないました。発災後2週間以上経過しているにも関わらず、一面瓦礫の山で、電気・水道は途絶したままでした。中学校には約200名の住民が避難所生活を送っており、内科的な慢性疾患への対応を中心に活動を行ないました。

東日本大震災による被害は、阪神大震災や中越・中越沖地震のような地震の揺れに伴うものではなく、津波による被害が殆どであり、既知の経験値を超えた津波の破壊力への驚きと共に、被災地における一日でも早い復興を心から願う以外ありません。



現場救護所から望む仙台市若林区



志津川中学校より望む南三陸町

2011年度 新任医師紹介

「はじめまして」

内科 宮 政明

4月より利根中央病院でお世話になっております。腎臓、透析、自己免疫疾患を中心に診療させていただきます。地域医療に貢献できるよう努力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「利根中央病院での抱負」

外科 長野 佳世子

利根中央病院について1ヶ月。病院の患者様、スタッフの方々の暖かい対応により、予想以上に早いペースで仕事に慣れました。今後は、皆様とのやりとりの中で一つでも多く学び、病院に来られる方々に還元できるよう、日々の診療を丁寧に務めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

「はじめまして」

皮膚科 関口 明子

皮膚科の関口と申します。高崎生まれ、高崎育ち、群馬大学卒業の生粋の群馬っ子です。2年の初期臨床研修後、昨年度は群馬大学病院で1年間皮膚科レジデントとして研修いたしました。今回、4月から利根中央病院へ赴任いたしました。毎日の外来の忙しさには驚きました。利根中央病院が地域のまさに中核なのだ、日々実感し、身を引き締めております。まだまだ若輩者ですがよろしくお願いいたします。

「四月より赴任して参りました」

眼科 袖山 博健

群大病院と連携しつつ、利根沼田地区のかかりつけ眼科を目指します。気軽な相談から白内障手術、レーザー治療まで、適切な医療で対応させていただきます。何か眼のことで気になることがございましたらご相談ください。宜しくお願いいたします。

「よろしく御願ひします」

内科 鈴木 諭

4月から内科、主に内科系救急外来及び一般内科を担当しております鈴木諭です。家庭医療専門医として、病院内における横断的医療活動と共に、地域の諸先生方とも連携を取らせて頂きながらの医療活動を目指していけたらと思っております。至らない点も多々あると思っておりますが、利根沼田地域の地域医療に微力ながら貢献できるよう日々努力していきたいと考えております。よろしく御願ひいたします。

「1年間よろしくお願いします」

整形外科 安藤 貴俊

4月より赴任しました。まだまだ経験が浅く分からないことばかりですが、利根沼田地区の方々のお役にたてるよう日々努力していきたくと思っています。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

「整形外科医として」

整形外科 須藤 軌道

4月に利根中央病院へ赴任してきました。外傷、骨・関節疾患を中心に診療を行なっています。ここ数年、各地での医師不足が問題となっており、整形外科も例外ではありません。今年は昨年よりも医師が減って大変な状況ではありますが、医療の質を保持できるよう頑張る所存でおります。よろしくお願いいたします。

「よろしくお願いします」

産婦人科 阿美 寛人

今年の4月より赴任いたしました産婦人科の阿美寛人と申します。

平成16年に卒業し、初期研修を終えた後、平成18年に群馬大学産婦人科に入局し以後関連病院を点々としてきました。糸賀院長、小松先生、大学からのパートの先生とともに利根沼田地域の産婦人科医療に貢献するためがんばりますのでどうかよろしくお願いいたします。

「初めまして」

産婦人科 小松 浩司郎

この度平成23年4月より産婦人科へ配属となりました小松浩司郎と申します。出身は群馬県でこれからも県の医療に従事したいと考えています。特に今年は沼田市の産婦人科医療に貢献できるよう頑張ります。あと、沼田に居る間に是非「吹き割れの滝」を拝見したいと思っています。どうぞよろしくおねがいします。

「春節とともに」

麻酔科 井手 政信

本年度4月1日付をもって赴任しました麻酔科 井手政信です。常勤医不在の2年を経ての着任となります。新病院建設・医師不足等地域医療の多くの問題を抱えるなかでの勤務となりますが、群馬県北の基幹病院として医療体制を維持すべく、微力ながら手術場より尽力を尽くす所存ですのでよろしくお願いいたします。

地域連携室紹介

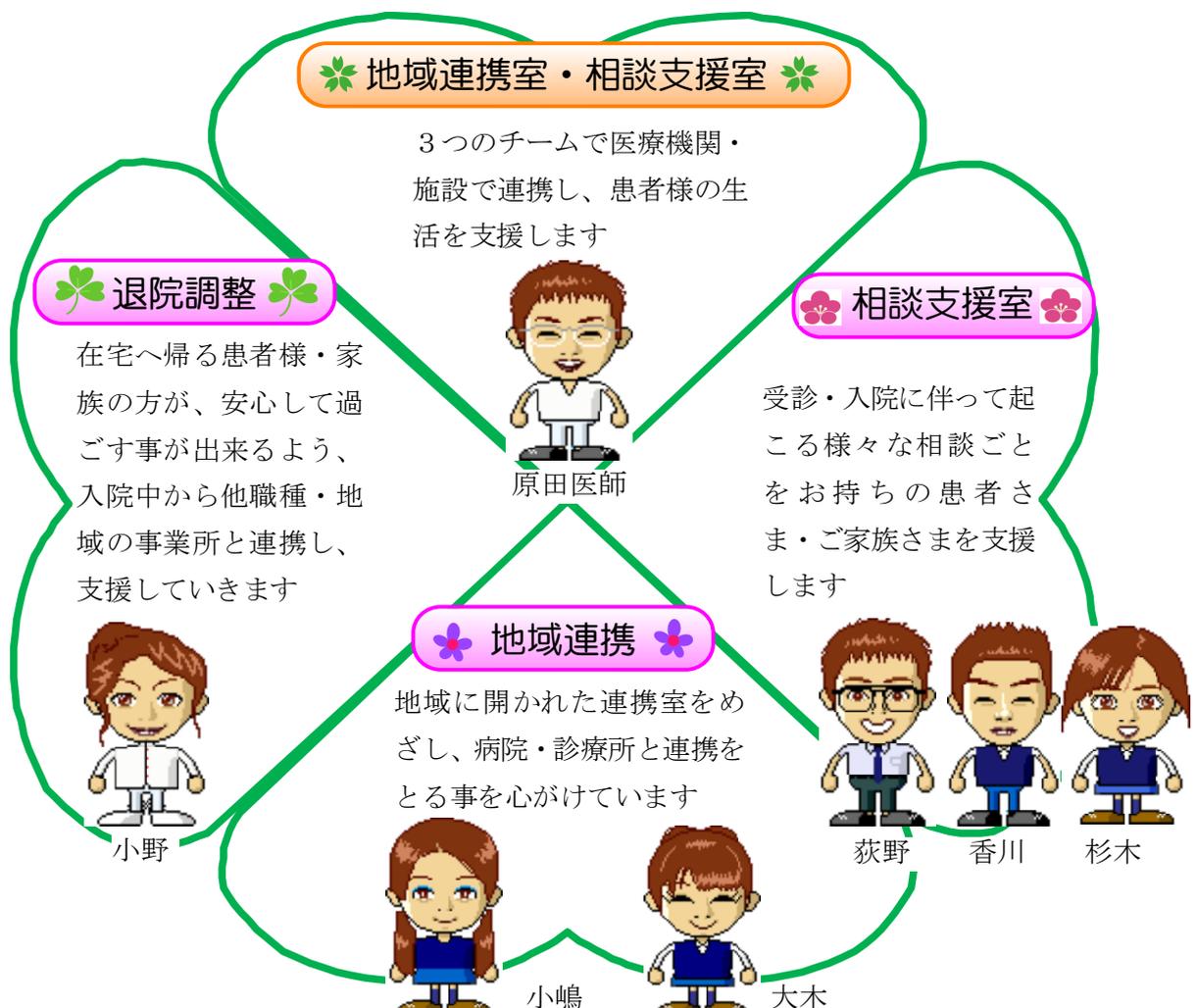


利根中央病院
地域連携室長 原田 孝

内科の原田と申します。クリニカルパス委員会の一員として、大腿骨頸部骨折連携パス、糖尿病連携研究会などを通じて、地域の先生方やスタッフの皆様には、大変お世話になっております。

このたび、地域連携室長を拝命することになりました。今後ともよろしくお願いたします。パス委員会の活動を始めた当初は、当院の医師体制も整っており、忙しいながらも地域の中核病院としてのプライドを持って、がんばっておりました。それが、2年前の内科医師の大幅減員から始まった混乱の中、地域の皆様に多大なるご迷惑をおかけしてしまっています。本当に申し訳ありません。できることからやっていくしかありませんが、培ってきたチーム医療の力を駆使して乗り越えようと思っています。

一人一人の患者さんにとって必要な連携を誠実に積み重ねて行きたいと思えます。不備な点やお気づきのことがありましたら、お声かけ下さい。未熟者ですが、よろしくお願いたします。





がんばろう！ 東北！
がんばろう！ 日本

東日本大震災により被害を受けられました皆さまに心よりお見舞い申し上げます。利根保健生協は皆さんと心をつなぐ復興に向け支援いたします。